

## 甲斐たかゆきの市議会だより「えがお」号外・2020年7月発行②



いつもお世話になっています。大分県内では、感染者も確認されず落ち着いてはいるものの・・・全国や世界の状況から考えると、第2波など今後のことが不安になっている昨今ではないでしょうか。今回のことで、教育現場や暮らしの中で、これまでも指摘されていた課題が、さらに際立ってきたと感じています。それは、「少人数学級」が拡大されていないこと、「社会的弱者」となっている方々へのサポート体制が不十分なこと、保健所などでの保健衛生体制が弱くなってきていること等々です。大分市政だけでは解決できない課題もありますが、県や国を動かすためにも、みなさまの声とともに私も市議として訴え続けます。ねばり強く取り組んでいきます。今後ともよろしくお願ひいたします。

### ○九州を中心に甚大な被害をもたらした今回の「7月豪雨」○

記録的な豪雨による被害は西日本から東日本にまで広がった。大分県内でも。大雨特別警報が何度も出され、土砂災害や河川の氾濫があちこちで起きた。これは、停滞を続けた梅雨前線の影響で猛烈な雨に見舞われたためである。この線状降水帯がもたらした豪雨により、観測史上最大となる降水量を九州各地で記録した。今回の豪雨は「想定外」のことだったのだろうか。「特別」なことなのだろうか。ここ数年間を振り返っただけでも、毎年どこかの地域で豪雨により土砂災害や河川の氾濫が起きている。もはや「毎年起こること」として「想定すべき」ことではないだろうか。自然との関わり方を見直しながら、あらゆることを「想定内」として捉え、防災・減災対策を早急に講ずる必要がある。災害が発生した際には、迅速に支援ができる体制強化も欠かせない。これらのために国が予算執行のあり方を今こそ見直すべきだと考えます。「イージス・アショア配備」や「辺野古新基地建設」などに多額の予算をつぎ込んでいる時期ではありません。もちろん防衛など安全保障政策も大切ですが、「日常の暮らしと命」があればこそその平和です。大分市などの地方自治体だけでは、防災・減災対策も限られた範囲でしか行えません。県や国と連携しなければ、莫大な予算が必要な事業を迅速に長期に渡って行うことはできません。そのためにも「防災復興省」的な国の行政機構再編が必要なのではないかと考えています。校区の見回り&取材で調査した危険箇所や対策の必要なところを大南支所などに報告しました。今後とも気になる点や心配なところなどの相談もお寄せ下さい。

### ☆6/29(月)「避難所開設・運営訓練」(荷揚町体育館)を見学☆

感染症対策にも考慮した避難所を運営していくために市職員の方々を中心とした訓練。段ボールベッド組み立てなどを順次体験。ワンタッチパーティション等もセット(右画像)。大分市では今後も避難所の生活環境向上と感染症対策のために各種備蓄品の拡充を行っていく予定。地域の訓練でも活用できるよう要望しています。段ボールベッドの組み立ての様子などを私のフェイスブックにも動画でアップしています。



甲斐高之 連絡先090-4991-6412

「甲斐たかゆき」後援会への加入者も募集しています。